



再歩

～にぎわい再び～

(有) 葬祭公社 (代表 かわばた やすなり 川端 康成 さん)

行政区：安永3町内

4月末、安永地区にある有限会社葬祭公社の川端代表に話を伺いました。取材当日は本館の外壁復旧作業中でしたが、快く取材に応じていただきました。

熊本地震により同社の2つの施設(本館、東館)は甚大な被害を受けました。県道28号線(熊本高森線)の南側にある東館は、会場すべてが利用できないほどのダメージを受け、本館も2階の大斎場の天井が落ち、1階の壁がはがれるなど、ごく一部の会場しか利用できない状況でした。

また、震災の混乱の中、役場機能が停止し、提出書類の手続きに非常に

を最大限活用し、なるべくお客さんに負担のかからないよう努め、6月には仮設会場としてプレハブを設けました。それと同時に、本館および東館においてグループ補助金を申請、産業支援財団の補助や日本商工会議所の小規模事業者持続化補助金を利用し、施設復旧への足掛かりとしました。

補助金申請の時のことを振り返り、川端さんは、「グループ補助金のやり取りには会社と県庁を1日に3往復することもあり、正直大変でした」と話す一方、「県庁職員が親身になって対応してくれました」と感謝の言葉も口にしました。

祭儀のご依頼を断らざるを得ない状況でした

苦勞したといえます。しばらくの間、本来とは別の場所で手続きをしなければならぬ状況が続いたことを川端さんは振り返りました。

「会場の利用が制限されたため、震災後は多くの方の祭儀のご依頼をお断りせざるを得ませんでした」と当時のことを思い、悲しそつに話す川端さん。断らざるを得ない、また仕事を受けたとしても、すべての祭儀を執り行うことができない状況に心を痛めていました。そのため、1日でも早い復旧を決心に決め、発災直後から行動を開始しました。

まずは、本館で利用できるスペース

迅速な行動の甲斐あって、発災から3か月後の7月には本館が復旧し、本稼働へ向けての大きな一歩を踏み出しました。

「それでも東館がないため、1か月に約2件は祭儀の申し込みをお断りさせていただかなければならず、せっかくならうちでと言ってくださったのに、お客さまには大変申し訳なかったです」平成30年3月17日、稼働を停止していた東館がリニューアルオープン。この時、発災から2年が経とうとしていました。

オープン当日、県の商店街にぎわいづくり補助事業を利用し、地域の人が



今年3月に再建された東館



震災によって、内壁や天井が崩れ落ちてしまった館内のようす



ちを中心としたオープニングセレモニーを行いました。「東館ができて、やっと震災以前の姿を取り戻すことができました。しかし、復興にはまだまだ時間がかかります」復興に向けての課題を語る川端さんの言葉に、インタビュをした我々も身の引き締まる思いでした。

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277